

鞆「まち博・春一番編」で空き家調査集大成



都市デザイン研究室有志鞆チームは、3月17~21日の5日間、第2回鞆まちづくり博覧会（「鞆まち博・春一番編」）を日大・伊東研究室と共同開催した。昨年11月に実施した「第1回まち博」以降の補足調査の結果を新たに盛り込み、会場も、鞆でもっともにぎやかな通りに面する太田家住宅・新蔵（重要文化財）に移して、年度納めにふさわしい堂々の博覧会となった。展示の内容は『鞆雑誌 2006』としてまとめられて、近日中に発行予定。（左は、「まち博」ポスター）

「花開ク時蝶来リ」の鞆プロジェクト 引かれてまちを荷風ばりに悉皆散歩

本誌前編集長・酒井憲一

「花開ク時蝶来リ 蝶来ル時花開ク」という良寛の詩がある。研究室の鞆プロジェクトに参加してそれを想った。3月17日からNPO鞆まちづくり工房で合宿し、第2回「鞆まち博」オープンに立ち会った。鞆の調査研究と提案パネル30枚が夜行バスで研究室から運び込まれての開催だった。

鞆プロジェクトの活動については、『鞆雑誌』創刊号で電撃的に魅了され、研究室会議で幾度となく報告を聞くうちに参加意識が募り、都市デザイン研マガジン7号のトップ記事に、鞆の浦行きは「毎度おなじみの新宿発20時55分発の夜行バス」とあった「毎度おなじみの」の7字にぐっと親近感が出て、どうしても参加したくなった。今回の鞆入りは、そのバスで学生たちと赴くことができラッキーだった。

まち博で住民の声を聞いた。東大の空き家再生調査活動が直接役立つので関心が強い、という複数の答えが返ってきた。パネルを読んで、そこに表れた場所へ足を運んだ。西端の医王寺の太子堂（きつい登りだった）から東端の安国寺までの間は縦横に歩き回ったが、実際思わず入りたくなる茶処田淵屋、深津屋、友光軒、食事処海彦などが最近まで荒廃した空き家だったとはつゆ想像できない町並みの繁盛ぶりだった。そのひな飾りの家で、港の埋立架橋計画はひどいという反対の声を聞いた。その港にあるいろは丸展示館となりの茶処「とうろどう」には、「西村幸夫様 ねじめ正一」の色紙が飾ってあって驚いた。同姓同名だった。ここから漁師まち平まで足を伸ばした。

この期の町内は「鞆町並ひな祭」にあたっていた。民家、店舗計80軒が道から見えるようにひな飾りを披露する期間から、店舗だけの期間に移っていた。しかし、閉じるのを惜しむ何軒もの民家がひな飾りを見せていて、「雛開ク時客来リ」の賑わいの波が、まち博にも及んだのだった。各拠点でひな飾りを公開する行事は、全国的に珍しくないが、民家までそろってお披露目という風景は初めて知った。鞆の優しさと物静かさの心意気がいい。

今回も女子学生たちは風のようにインタビューに向かい、男子学生は龍馬会談の旧家再生現場でヘルメットをかむって、こともなげに木質の磨き出しに精を出した。この「風のように」と「こともなげに」が学生たちの共通した行動姿勢だった。奇しくも鞆と同じ優しく物静かな心意気が、研究室のキャラクターなのだと思った。

空き家再生のプロモーターで、いつものように宿所を提供された鞆まちづくり工房代表松居秀子さんの情熱的な話を昼に聞き、夜はさらに情熱的な夫君を交えて、中島直人助手や学生たちと夜っぴて懇親したほとぼしる夜が忘れられない。

「鞆開ク時東大来リ 東大来リ時鞆開ク」の誇りで、鞆プロジェクトの充実を期待したい。

参加者：江口美M1、岡村祐D2、酒井憲一研究生、阪口玲磨M2、鈴木智香子M1、中島直人助手、西原まりM2、坂内良明M1（五十音順）



■にぎわうまち博会場



■ひなかざりと（ホテル）



■民家再生（右端院生）



■宿舎の深夜コンパ



■おや、西村教授？

追いコン、M1描くスケッチTシャツ贈られ新鮮

あっという間に過ぎ去った2年間。「お世話になりました」と新修士たちは晴れやかにあいさつして拍手に包まれた追いコンは、3月23日夜、上野の中華料理「シードラゴン」で開かれた。30人がぎっしりと膝突き合せた熱気の中で、修士たちはブーケと江口久美 M1 の14号館パノラマ・スケッチを大きく胸にプリントしたTシャツ、聴講生からの2年間を終えて修了する酒井研究生には、より大きなブーケが贈られた。



二次会は近くの和風料理「一の倉」へ全員が移動して盛り上がるなか、初の工学系研究科長賞を受賞した黒瀬武史修士に、幹事の突然の指名で酒井研究生がメダルを首に付けるセレモニーがあり、拍手と爆笑にわいた。酒井研究生には、参会者のメッセージを満載した色紙が贈られた。メッセージは表に書ききれなくて、裏面までつづいていた。(酒井憲一)

新修士は伊藤晃久、内山隆史、大谷剛弘、黒瀬武史、阪口玲磨、田辺康弘、戸田惣一郎(五十音順)の7人のさむらい。

<追いコン追記> なお、三次会は毎年恒例の朝までカラオケ。占領した2室に響くは万感の思いを込めた歌、歌、歌。声もからから、皆で思いっきり歌い倒しました。そして最後は、上野駅のラーメン屋。腹を満たして店を出ると、朝の陽光、小鳥の囀り。M2たちが牽引した2005年度の研究室活動は、こうして幕を閉じました。皆さん、お疲れ様でした。(中島直人)



■ 江口Tシャツ・図柄

14号館の院生室窓からの景色を得意のメルヘンチックなテイストで描いた力作。新修士にとっては、すばらしき院生生活の記念となるはずだ。



■ 黒瀬修士、工学系研究科長賞受賞に貫禄破顔■

今年度から始まった工学系研究科長賞は、大学院修士課程における優秀な研究活動を表彰するもので、各専攻から一人ずつ選考される。黒瀬修士は、修士論文「米国におけるブラウンフィールド再生政策とその実践に関する研究」のほか、喜多方プロジェクトにおける主導的活躍や京浜臨海再生プロジェクトでの活動が評価されて、文句なしの第1回受賞の栄冠に輝いた。

タイの大学との交流の一日 ニラモンさんと半年振りの再会

2006年3月20日、タイ・バンコクのカセトサート大学建築学部都市環境計画学科のブーンサム講師以下、大学院生と家族ら15名ばかりの大集団が都市デザイン研究室にやってきました。昨年9月から同じくバンコクのチュロンコン大学の講師として活躍中の研究室OGニラモンさんも一緒に来日し、研究室メンバーとの久々の再会を果たしました。当日は午前9時から交流会を開催し、お互いに研究発表を行いました。研究室からは、中島直人助手が研究室紹介と「まちづくり」について、建築史研究室からの助っ人初田香成D3が東京の都市形成史、後藤健太郎M1が八尾プロジェクトについて発表。



昼食後は、谷中、根津のまちを案内。残念ながら若干の曇り空、富士見坂から富士山を望むことはできませんでしたが、2時間以上かけての充実したまちあるきとなりました。夜はニラモン、中島、後藤、ユイ研究生に、OB今川俊一が加わり、本郷の中華料理屋で打ち上げ。ニラモンさんの婚約(結婚式は2006年10月下旬です！是非、研究室旅行はバンコクへ)、今川氏の躍進(静岡市役所へ転職)を心からお祝いしたのです。



■ 北沢部屋、引越し完了

大学院新領域創成科学研究科の柏キャンパスへの移転に伴い、14号館9階の北沢教授室も先3月末に引越しを完了した。折り悪しく就職活動や帰省の時期と重なり、作業の戦力となるべき院生の数が絶対的に不足するなか、北沢教授は珍しいジーパン姿で、煙草をくわえつつ自ら書籍の整理・梱包にあたった(左写真奥に北沢教授)。

■ 編集後記

鞆へ、読みさしの本をスーツケースいっぱいを持って行ったが、四日間でほとんど減らなかつた。ひんやりとした蔵の会場には、「ひっきりなし」にはないが、「読書が捗らない」ていどには、来場される方があり、説明を試みたり、ストーブを囲んで話したりなどするうちに、たのしく一日は過ぎていった。瀬戸内の春は期待と異なってまだ少し肌寒かったが、ゆったりとした時の流れを味わい尽くして東京に帰ると、例年より一週間早い花が咲いていた。(坂内)